

## 会 議 記 録

高松市附属機関等の設置、運営に関する要綱の規定により、次のとおり会議記録を公表します。

会 議 名	令和4年度第1回高松市中央卸売市場開設運営協議会
開催日時	令和4年5月23日(月) 午後1時30分～午後3時29分
開催場所	高松市中央卸売市場 管理棟 5階 大ホール
議 題	(1) 会長、副委員長の選出について (2) 令和3年取引高及び令和3年度事業の報告について (3) 市場の再整備について (4) 市場の活性化について (5) その他
公開の区分	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非公開
上記理由	—
出席委員	会長、副会長、委員7名 (欠席1名)
傍 聴 者	4名 (定員 6名)
担当課及び連絡先	市場業務課業務指導係 862-3411

### 会議の経過及び結果

- 議題1 会長、副委員長の選出について  
委員から推薦され、承諾した。
- 議題2 令和3年取引高及び令和3年度事業の報告について  
事務局から議題2について報告した。
- 議題3 市場の再整備について  
事務局から議題3について報告した。
- 議題4 市場の活性化について  
事務局から議題4について報告した。
- 議題5 その他  
令和4年臨時休開場日について  
事務局から議題5について報告した。

## 主な審議内容

### 議題2 令和3年取引高及び令和3年度事業の報告について

(委員) 水産物部の取扱高の推移について、売上がここ数年で2～3割減少している。

水産物は、主に外食での需要でまかなっているため、国の政策の飲食店営業自粛により、多くの飲食店が休業したことでかなり影響を受けた。売上減少は、新型コロナウイルスだけが原因ではないと思うが、経費削減等の自社努力では、思うように改善していないため、皆さんに御協力していただきたい。

(委員) 資料の水産物部の取扱高をみると、加工が弱い。売れるのは加工であり、売り方を考えないといけない。

(副会長) 市場法に基づき、市民が普通の食生活を送るために、食料インフラとして国が認めているので、この会がある。数%の売上減少がどれだけ深刻な影響を受けるかを理解し、市場の現実を踏まえて考えていただきたい。

(会長) 市場の役割を理解するとともに、エッセンシャルワーカーとして、市場関係者それぞれが立ち位置を理解していかないといけない。

(委員) 物価が値上がりしている実態があることと、家庭環境の変化により食事の仕方が変わってきていることから魚離れが進んでいる。切り身しか買わない家庭が増えている等の変化に応じた販売方法を見つめ直す必要がある。  
また、物価の上昇を抑えるためにも、食品ロスの削減に真剣に考える必要がある。

(委員) 事務局からの報告の中で、水産物の取扱高の落ち方は今までにないくらいの数字であり、ショックを受けた。新型コロナによる外出制限の影響や人口減少等の影響もあると思うが、国の政策について議論しても仕方ない。  
2年前に条例改正を行い自由化となり、なんらかの対応をされての落ち方であると思われるが、詳しく説明してほしい。

(副会長) 令和の時代にどういう生鮮流通機能が必要であるか、卸はどのようなパートを担うかを考え、チャレンジしているところである。委員が言うように、食生活の変化による素材離れがあるため、どういう機能を市場に持たせるか、開設者と議論していく必要があると考えている。

人口減少については、高松だけではなく四国にシェアを広めて対応していきたい。

また、地産地消を進めるため、地産地消の推進室を作り、変化していく努力もしている。

(委員) 水産の現状については、人口減少により食べる人、取る人も減っていて、新型コロナウイルス感染拡大が起きる前でも売上減少は3~4%であった。売上増加のために、自由化になってからは地産地消から地産他消を進め、商社的な商売に変えていっている。ただ、法律は変更されても、輸送コストや金利の負担等の問題が出てきており、対応できていないこともあり、長期的なビジョンで行政と協力して改善に努めていきたい。

また、加工品が少ないとの指摘があったが、卸が加工に回ると少ない加工のシェアを取るようになるため、なかなか難しい。統計の数字は、漁連からの加工品が生鮮水産物に含まれている等、実際と数字には、ずれが生じていることをご理解いただきたい。

新型コロナウイルスの影響によってマイナスもあったが、リストラクチャーできた部分もあり、社員の休日出勤は無くなったりして労働基準を満たす働き方に変化できた。

場内には見えないものも多々あるので、意見があればありがたい。

(委員) 学会でもコロナ禍で食が変化しているとの見解がある。巣ごもり需要で高級化と手軽さの二極化していると感じる。手軽さに関しては、生鮮食品をどうにか加工に持っていく取り組みをしてはどうか。また、地産地消・地産他消を進めるにあたって、他県の者からみると、香川の食品はとても魅力がある。ターゲットごとに、どのようにPRしていくかを考えて、取り組む必要がある。

(委員) 水産の売上減には、新型コロナで居酒屋の休業が影響していると思われるが、コロナ禍においても食事はする。親が魚を買わないため、子どもの成長に対して、魚がどのように必要なのかや魚の良さをPRしていくべきである。

### 議題3 市場の再整備について

(委員) 調理室があるのはどのような使い方か。

(事務局) イベント、見学等での旬の食材を使った料理教室や試食を予定している。また、一般に貸し出すことも考えている。

(委員) 地産地消を進めるために、『まんばのけんちゃん』のような地産地消の料理を広めてほしい。

(副会長) 従業員に野菜のソムリエの資格を取得させて、公共のスペースで野菜の発信を行ったり、四国新聞にもレシピを載せたりしている。フェイスブックやホームページでもレシピの掲載やネット販売等、野菜のPRをしている。

(委員) 地産地消で実際に食べられるところをうみまち商店街にお願いしたい。

(委員) 水産物棟の再整備について、コミセンや日新の体育館が老朽化しているため、避難所として持ってこれないか。また、うみまち商店街は魚を提供する店が少ないので、多めに入れてはどうか。

(委員) 水産物棟は夜中から昼までしか使用しないため、使用しない時間に市民が集まる場所を設置してもよいのではないかと行政と話している。また、できるのなら防災の予算も使うことができればと思っている。

(会長) 水産物棟整備の際に、災害が四国であった時に、高速道路、鉄道、空港、海のどれも高松は近いので、食料安定供給の場・物流拠点になるように考えてほしい。

(委員) 再整備について、資料に『PFI等導入可能性』と記載があるが、青果棟もPFI導入の可能性はあるのか。普通財産になることで固定資産税が上がるのではないか。

水産物については、商品の訴求力があればいいが、地域ブランド的なものの進展具合を教えてください。

不便な場所には人は集められないため、人的動線の整備が必要であるが、その計画を教えてください。

(事務局) 新青果棟については、公共としての整備をしているため、固定資産税の対象にはならない。新水産物棟については、PFI等を含めた民間の力をお借りできるか検討中である。収益性もどのようにすれば確保できるか検討中である。賑わいを出すための地域ブランド的なものは、明確なブランドはないが、瀬戸内をどのように売っていくのかを漁協等と相談して決めていきたい。このエリアの動線については、利便性、収益性、水産棟も機能する形を検討していく。

(委員) 現在の場所は街に近いのはいいが、海に囲まれており、四方八方から人が寄れない弱い位置あることを理解して整備を進めてほしい。

(副会長) 新水産物棟はPFIにより使用料もだいぶ軽減できると思うが、青果棟でも使用料軽減をお願いしたい。

香川の野菜・果物のポテンシャルは高いが、日本中が香川の食材を知っているわけではないので、皆さんの知恵を借りながら、PRに努めたい。

#### 議題4 市場の活性化について

(会長) 多目的トイレについては、この会で意見を出して実現したものである。ほかにも様々な議論を行ってきたことで、ここまで賑わいを取り戻し、高松市の核となってきたと認識している。この市場の活性化について、何か御意見ございますか。

(委員) マスコットキャラクターのせとりんは、なぜ鳥なのか。もっと関係のあるものにしてはどうか。

(事務局) 工芸高校の生徒のデザインであり、海鳥をモチーフにしている。好評な意見もあり、今後も使用していく予定である。

(委員) うみまち商店街に入っている店舗は、地産地消の推進をしているのか。また、仲卸から購入して営業しているのか。

(事務局) 店舗によって違うが、多くは仲卸から購入している。  
地産地消については、把握できていない。

(委員) テナントの選別の中で、地産地消を義務付けることはできないか。

(事務局) 通常の行政の考え方は、建物を壊すときに、数年でテナントを出してしまい処分するのが一般的である。ただ、将来に繋げるために、今の資産を有効活用できるかを考えてお金をかけずにやってきた。先がある建物に入ってもらうのも、改装費用等もあるため難しい中で、入っていただいた。再整備後については、地産地消も考えていきたい。

防災についても、防災計画を把握しながら進めていきたい。

PFI、交通インフラについては、海を使ってのインフラも含めて現在調査を進めており、その結果で判断していく。

コミュニティセンターについては、民間導入となると可能性はあるものの、行政単独となると難しいと思われるので、引き続き検討はしていく。

行政と民間が融合してやっていけるような方法を、みなさんに相談させていただきながら進めていきたい。

(委員) 香川の食材を使用した料理教室の開催を進めて、若者に広めていっていただ

きたい。

(委員) 料理教室に参加された方に広めることはできるが、次の段階に広めないといけない。何回か参加していただいて、指導者にまで育ててほしい。持続的な結びつきが必要である。

(副会長) 全く同じ意見である。野菜を売る立場の従業員に、まずは、野菜を知ってもらわなければならない。調理の楽しさを知って、できる人を育てていかないといけない。

PFIについて、他市場では家賃の軽減を図るため、ホテルを建設する等の取り組みを行っている。高松市場も、観光のためだけではなく、何か面白い仕組みを作っていけるよう考えていきたい。

#### 議題5 その他

(委員) 水産物棟のトイレに洋式がなく不便である。関係者も高齢化しているため、修繕をお願いしたい。

閉会 午後3時29分